

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

仁愛大学

令和5年4月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	11
III	総合評価	15
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	16
V	現況基礎データ一覧	17

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：仁愛大学
- (2) 学部名：人間学部 人間生活学部
- (3) 所在地：福井県越前市大手町3-1-1
- (4) 認定を受けている教職課程

学部・学科	教職課程種別
人間学部 コミュニケーション学科	中学校教諭一種（英語）
	高等学校教諭一種（英語）
人間生活学部 健康栄養学科	栄養教諭一種
人間生活学部 子ども教育学科	幼稚園教諭一種
	小学校教諭一種

- (5) 学生数及び教員数

（令和4年5月1日現在）

学生数：人間学部	教職課程履修9名／学部全体273名
人間生活学部	教職課程履修263名／学部全体484名
.....	
教員数：人間学部	教職課程科目担当（教職・教科とも）6名／学部全体30名
人間生活学部	教職課程科目担当（教職・教科とも）11名／学部全体32名
.....	

2 特色

本学は、「仁愛兼済」を建学の精神とし、すべてのいのちのつながりの尊重と相互敬愛の仏教精神を基本とし、豊かな人間性の涵養と専門の学芸の教授研究を通して、社会の発展に貢献する有為な人材を育成することを目的としている。本学の教員養成もこれに基づき、相互のいのちを敬愛できる教員を育成するために、「教育職に対する強い情熱」「教員としての確かな力量」「総合的な人間力」「不断の研究態度」の四つの要素に力点を置いて学生指導を行っている。各学部・学科ごとの目標及び当該目標を達成するための計画は、以下の通りである。

・人間学部コミュニケーション学科

これからの英語教育を担う中学校・高等学校教諭には、「教職に対する強い情熱」「中学校・高等学校における英語教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」「不断的研究的態度」の4つの要素が重要である。本学科は、教育課程全体を通して、これらの要素を構成する資質・能力を身につけ、「生徒の発達段階や英語の習熟度に応じた言語知識の学習、4技能（聞く・話す・読む・書く）の言語活動および異文化理解を通して、国際的なコミュニケーション能力を養う英語教育に寄与する中学校・高等学校教諭」の養成を目指している。

・人間生活学部健康栄養学科

これからの栄養・食生活の教育を担う栄養教諭には、「教育職に対する強い情熱」「栄養教諭としての確かな力量」「総合的な人間力」「不断の研究的態度」の4つの要素が重要である。本学科は、教育課程全体を通して、これらの要素を構成する資質・能力を身につけ、「学童・生徒の成長発達過程を深く理解し、学校給食の管理および食に関する指導を通して、子どもの健全な育成および生きる力を養う栄養教育に寄与する栄養教諭」の養成を目指している。

・人間生活学部子ども教育学科

これからの幼稚園・小学校の教育を担う教諭には「教育職に対する強い情熱」「幼稚園・小学校の教諭としての確かな力量」「総合的な人間力」「不断の研究的態度」の4つの要素が重要である。本学科は、教育課程全体を通して、これらの要素を構成する資質・能力を身につけ、本学科が目標とする「乳幼児から児童期までの子どもの成長発達過程を深く理解し、子どもの健全な育成および確かな学力を養う創造的な教育に寄与する幼稚園・小学校教諭」の養成を目指している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学では、学則第 1 条に定める教育目的に基づき全学のディプロマ・ポリシーを定め、これを踏まえて各学部・学科のディプロマ・ポリシーを、それぞれ 3 区分の能力「知識・理解・技能」「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」に分け定めている。そのうえで、学部・学科の各科目とディプロマ・ポリシーとの関係・整合性を図表等で示した履修系統図を作成し、科目ナンバリングを整備している。教職課程も各学部・学科の教育課程の中に位置づけられており、建学の精神とする「仁愛兼済」の精神に基づき、相互のいのちを敬愛できる教員を育成するために、「教育職に対する強い情熱」「教員としての確かな力量」「総合的な人間力」「不断の研究態度」の四つの要素に力点を置いたカリキュラムを編成している。

人間学部コミュニケーション学科の教職課程においては、学科の基幹科目、応用科目のそれぞれを「教科に関する専門的事項」に関する科目に充てており、履修を通じてコミュニケーション学基礎、コミュニケーション学専門、実践的英語力が修得できるよう教職課程が編成されている。また、「教科に関する専門的事項」以外の科目は、特設科目として位置づけられている。令和 4 (2022) 年度入学生から適用される履修系統図においては、これらの特設科目を通じて「新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められる優れた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育む」ことが新たに明示されるようになり、教職課程の目的がより明確化されたと言える。

一方、人間生活学部健康栄養学科においては、特設科目も含めたすべての教職課程科目が学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「学校における「栄養・食教育」および地域社会の特色を活かした健康づくりを担うことができる力を身につける」という目標に関わる科目として位置付けられている。この目標に対応する科目は教職課程科目以外にも設けられており、給食やライフステージの特性、栄養教育等の事項も幅広く修得することで、学科教育全体を通じて栄養教諭としての総合的な資質・能力を身に付けられるようにしている。

人間生活学部子ども教育学科は、教員養成を主たる目的とする学科であることから、教職課程全体が学科のディプロマ・ポリシーをもとに編成されていると言える。具体的には、「教育・保育の基礎理論の理解」「教育・保育の内容の理解及び指導方法」「教育・保育の実践に求められる表現技術」「教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解」「教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度」「子育て支援の理解と支援方法」「探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力」をそれぞれ身に付けられるようカリキュラムを編成している。

以上のことは、学生便覧や履修系統図、各教職課程において学生に配布する教育実習の要項・

手引き等に可視化されており、全学委員会である教職課程委員会等で情報共有し、計画的にカリキュラムを実施できるよう努めている。また、学生に対しても学期初めのガイダンス等を通じて、教職課程の目的を周知するようにしている。

〔長所・特色〕

本学の IR 推進室では、集約・蓄積されたデータをもとに、学生個々の学修成果に関する「学修成果可視化シート」を作成している。これは、学科のディプロマ・ポリシーごとの学生本人の能力の獲得について、そのポリシーに関連づけられた科目の修得単位、GPA、GPT（Grade Point Total）をもとにレーダーチャート化したものである。令和3（2021）年度から全学生に配付されるようになり、各学生に対する学修指導にも活用されている。

また、各学科では学期ごとに学生に記入させるポートフォリオを作成しており、これも学修指導に活用されている。これらを通じて、各学生の履修状況や学修成果を、学生本人と教職員とで相互に点検し、教職課程の目的を定期的に確認することができていると言える。

〔取り組み上の課題〕

本学では、学生の履修状況や学修成果を確認できるツールが複数用意されている。上述の学修成果可視化シート、学生ポートフォリオに加えて、教職課程の履修状況を記入する履修カルテもあることから、教職課程担当教員が教職課程の目的・目標を踏まえたうえで学生の状況を確認する機会が豊富にあると言える。一方、これらのツールはそれぞれ別の目的で作成されたものであるため、活用も別々に行われているのが現状と言える。必ずしも一元的に活用する必要はないとはいえ、相互に関わらせることでより有効に活用できることも考えられる。とりわけ履修カルテについては、教職課程教育独自の学修成果を確認するものとして重要な位置を占めるため、その内容と活用方法について検討する機会を設けたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-①：人間学部 学生便覧 2022【P11-12】
- ・資料1-1-②：人間生活学部 学生便覧 2022【P12-13】
- ・資料1-1-③：令和4年度 委員会編成一覧
- ・資料1-1-④：教職課程委員会規程
- ・資料1-1-⑤：仁愛大学 学部 実習指導委員会規程
- ・資料1-1-⑥：仁愛大学 学科会議規程
- ・資料1-1-⑦：履修系統図
- ・資料1-1-⑧：学修成果可視化シート
- ・資料1-1-⑨：学生ポートフォリオ

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、全学委員会である教職課程委員会において、教職課程の編成及び実施に関する基本的事項等を取り扱っている。本委員会は、教職課程をもつ学科の教員はもちろん、各学部の実習指導委員会委員長、教務委員会委員長も委員に加わることになっており、各学部・学科の教育課程の全体像を踏まえたうえで各教職課程について全学的に検討する場となっている。また、本委員会には、学生支援センター学務課長、キャリア支援センター課長も参画することで、教職員協働体制も構築されていると言える。教育実習に関しては、各学部の実習指導委員会等が組織されており、学部の実状に応じた実習指導体制が構築されている。さらに本学では、各学科において学科会議が開催されており、研究者教員と実務家教員とがともに協議や情報交換を行う場となっている。上記委員会及び学科会議での決定事項は相互に報告されることになっているため、全学組織と各学科との間で適切な情報交換と役割分担が図られていると言える。

上記の体制に基づく教職課程の質的向上のための組織的取り組みについては今後さらに検討される必要があるが、本学の FD/SD 活動は教職課程の質的向上にも資するところが大きいと考えられる。例えば、学期ごとに行われる授業公開月間では、教職科目も含めた全科目が原則として公開され、教員相互が授業を参観し合うことで授業改善に資する場となっている。また、教職課程委員会主催で毎年開催している教育講演会では、経験豊富な教員や行政担当者を講師に招き、学校現場や教育行政の最新の動向について理解を深める機会としている。

教職課程教育を行ううえでの設備面については、基本的にすべての教室に、模擬授業やプレゼンテーションを行ううえで必要な ICT 関連機器が備えられている。また、英語、栄養教育、理科、音楽、図画工作のための特別教室がそれぞれ設けられているほか、英語に関しては英語教育センターが開設されている。同センター内には、英語の学習に関する学生の相談に応じるスペースが設けられているほか、気軽に自己学習や情報収集を行える E-Lounge、授業以外にも自己学習で活用できる CALL 演習室が設けられている。次に、教職課程履修学生用の学習スペースとしては、教職課程共同学習室が設置されている。ICT 環境も整えているため、模擬授業の練習なども行える環境となっている。広大な学習室であるわけではないが、学科の枠を越えて学生が交流できる場となっている。

〔長所・特色〕

先述のように、本学では FD 活動の一環として、学期ごとに授業公開月間を設けており、教員相互の研鑽の機会となっている。また、人間生活学部子ども教育学科においては、授業公開期間中の授業を地域の保育・教育関係者対象にも隔年で公開しており、参観者から授業に関する率直な意見を頂戴する機会としている。さらに、同学科では、非常勤講師との懇談会も隔年で開催しており、授業や学生に関することについて意見交換を行い、授業改善に役立てている。

教職課程委員会主催の FD 活動として教育講演会が挙げられる。毎年開催する同講演会では、本学の特性を生かし、英語教育、食育、幼児教育、小学校教育の各分野で豊かな経験をもつ講師を招聘している。本講演会は、本学が立地する越前市をはじめとする福井県の教職員の研修の場

ともなっており、学校関係者と大学教職員が相互に学び合う機会となっている。

〔取り組み上の課題〕

本学においては、必要最低限の ICT 環境は整備されていると判断できるが、一人一台端末の導入が急速に実現した学校現場の状況に照らして、環境をさらに充実させる必要がないかを検討する必要がある。また、FD/SD 活動については、本学独自の取り組みが実践されているとは言えるが、教職課程に特化した FD/SD 活動が必ずしも豊富であるとは言えない。教職課程固有の取り組みとして、どのような活動が必要なのかを教職課程委員会を中心に協議する機会を設ける必要があると考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-①：仁愛大学委員会等編成表
- ・資料 1-2-②：教職課程委員会規程
- ・資料 1-2-③：仁愛大学 学部 実習指導委員会規程
- ・資料 1-2-④：仁愛大学 学科会議規程
- ・資料 1-2-⑤：教職課程共同学習室 使用規程
- ・資料 1-2-⑥：教室使用一覧
- ・資料 1-2-⑦：英語教育センター／施設案内(HP)
- ・資料 1-2-⑧：子ども教育学科 令和 4 年度 非常勤講師懇談会 報告書
- ・資料 1-2-⑨：子ども教育学科 令和 3 年度 教育・保育関係授業公開報告書
- ・資料 1-2-⑩：授業公開月間について【FD/SD 推進委員会】
- ・資料 1-2-⑪：令和 4 年度 仁愛大学 教育講演会のご案内

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学では、建学の精神である「仁愛兼濟」を基盤とするアドミッション・ポリシーを、学部・学科ごとに定めている。アドミッション・ポリシーは、本学ホームページや入学者募集要項等に記載し、本学が主催する進学相談会やオープンキャンパス等の機会を活用して周知している。また、全入学者に配布される学生便覧には、教職課程で学ぶにふさわしい学生像を明記しており、学期初めのガイダンスの際に学生に説明している。

学生が教職課程履修を適切に開始・継続できるための取り組みは、各学科の特性に応じて行われている。人間学部コミュニケーション学科では、教職に就く意思があり通算 GPA が一定値以上の学生のみが教職課程を履修できるようにしている。履修希望者は履修届を学部長に提出することになっており、教職に就く意思を確認する機会としている。また、同学科及び人間生活学部健康栄養学科では、通算 GPA が一定値以上であることや所定の科目の単位を修得していることを教育実習の受講資格としている。人間生活学部子ども教育学科においても、所定の科目の単位を修得していることを教育実習受講の条件としている。また、同学科では、教員採用選考試験に係る大学推薦対象者を決定する際に、通算 GPA 値を参考とすることを、学生にも周知している。

教職課程履修学生に対しては、「履修カルテ」を記入するよう定期的に指示している。記入時期や記入方法は学科により異なるが、履修カルテは基本的に大学で保管、もしくは Web 上で常時閲覧できるようにしているため、必要に応じて教職課程担当教員が閲覧し、個別に教職指導を行えるようになっている。

〔長所・特色〕

上記の一連の取り組みにより、本学では全体として適正な規模の教職課程履修学生が確保できていると言える。人間学部コミュニケーション学科、人間生活学部健康栄養学科においては、学年ごとの教職課程履修学生が多くても 10 名を超えない規模で推移しており、教職課程担当教員が全履修学生の履修状況や学修状況を無理なく把握できる環境が維持できていると言える。また、人間生活学部子ども教育学科においても、入学定員と学科所属教員の比率が5対1となっており、適正な規模の学生が確保できていると言える。また、ほぼ毎回の学科会議で「学生の状況について」という議題が設けられ、学修状況が気になる学生等の情報を共有したうえで、対応を検討するようにしている。

〔取り組み上の課題〕

人間学部コミュニケーション学科、人間生活学部健康栄養学科においては、教職課程の履修学生数が年度により増減する傾向がある。少人数で行き届いた指導ができる規模が維持されていると言えるものの、安定した履修学生数の確保に課題を抱えていると見ることもできる。また、人

間生活学部子ども教育学科は教員養成を主たる目的とする学科であるが、年度により最終的な教員免許取得者数に若干の増減が見られることも事実である。そのため、教職課程の履修資格や教育実習の受講資格が、学生の実情と照らして適切なものと言えるかどうかを引き続き検討していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-①：人間学部 学生便覧 2022【P14、34、35】
- ・資料2-1-②：人間生活学部 学生便覧 2022【P14、38、49、52】
- ・資料2-1-③：人間学部教職課程履修届
- ・資料2-1-④：履修カルテ

評価項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学では指導教員制を設けており、すべての学生が指導教員との個別面談を定期的に行うこととなっている。また、それぞれの学科の特性を踏まえた学生ポートフォリオが作成されており、面談等で活用されている。ポートフォリオ等の素材をもとにした面談等を通じて、教職に就こうとする学生の意欲や適性等を把握できるよう努めている。また、本学では、「大学教育情報システム」を導入しており、本システムの運用により、指導教員は担当学生の情報を一元的に把握できるようになっている。これにより、面談時以外にも学生の状況を確認することができるため、必要に応じた学生指導を常時行える体制が整っていると見える。

3年次以降の学生については、特別演習（ゼミ）担当教員が指導教員を担当することになっている。指導教員は、学修状況や学生生活についてはもちろん、進路選択に関する相談に対しても助言や支援を行う体制をとっている。

以上のように、指導教員や授業担当教員等を通じて把握された学生の情報は、必要に応じて学科会議や各学部の実習指導委員会で共有されるほか、全学的な動向は教職課程委員会でも報告される。教職課程委員会で報告された情報をもとにキャリア支援センターでは、教員志望者に特化したガイダンスを年10回程度開催している。これらのガイダンスには、本学の在学生・卒業生が多く在籍している地域の県教育庁教職員課と連携して開催される「福井県、石川県公立学校教員採用選考試験学内説明会」や、本学OB・OGの現役教員を招いて開催される「先輩教員と語る会」などの取り組みも含まれる。また、キャリア支援センター主催行事に限らず、教員志望者対象の各種行事や教員採用試験に関する情報は、同センターが管理する就職支援システム等を通じて適切に学生へ周知されるようになっている。さらに、各学科においても、学科OB・OGの現役教員の話聞く機会の設定や、地元教員が開催する研究会に関する情報提供、教育委員会を招聘しての特別講義開催等の独自の取り組みが行われている。

教員採用選考試験の受験に向けた取り組みとしては、キャリア支援センターによる教員採用試験対策模擬試験(全4回)の実施や、同センターと各学科教職員とが連携して実施する教員採用試験対策講座(全10回)等が挙げられる。これらに加えて、英語の筆記試験対策や模擬口頭試問(いずれも人間学部コミュニケーション学科)等の学科独自の取り組みも行われている。

〔長所・特色〕

本学では全学的に少人数教育の機会を多く取り入れている。1年次必修科目「基礎演習」では、指導教員を中心とする個別の学生指導の時間が設けられている。また、3年次から始まる特別演習（ゼミ）では、学科により規模が多少異なるが、ゼミごとの学生数が多くても10人前後と、少人数教育が可能な適正人数が確保されており、進路も含めた個別指導が可能な体制になっていると見える。

教職に関するキャリア支援は、各学科とキャリア支援センターとが連携しながら取り組んでいる。特に各学科OB・OGの現役教員を招いて開催される「先輩教員と語る会」では、OB・OGの学生時代の取り組みや教員採用選考試験に向けての対策、採用後の仕事の様子等が語られるほか、

座談会形式で学生が質問できる時間も設けられているため、学生にとっての貴重な意欲向上の場となっている。

〔取り組み上の課題〕

教員採用試験対策講座を全 10 回程度開催しているが、すべての試験科目をカバーする講座とはなっておらず、各学科での取り組みや個別の教員によるサポートに委ねられているのが現状である。全学的に行う取り組みを拡充する必要があるかどうかを検討する必要があると言える。また、上記講座の対象学年は 3 年生となっている。これについても、より早期からのキャリア支援の必要がないかを各学科のカリキュラムを勘案しながら検討する必要があると言える。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-①：人間学部 学生便覧 2022【P44、48】
- ・資料 2-2-②：人間生活学部 学生便覧 2022【P68、72】
- ・資料 2-2-③：令和 4 年度教員採用試験対策講座実施要領
- ・資料 2-2-④：教員採用試験対策〔2019～2021 年度入学生対象〕【e ラーニング】
- ・資料 2-2-⑤：先輩教員と語る会
- ・資料 2-2-⑥：福井県・石川県公立学校教員採用選考試験学内説明会
- ・資料 2-2-⑦：【基礎演習】シラバス

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学では、建学の精神に関わる科目として「仏教の人間観」（必修）、「人間と宗教」「仏教の思想」の3科目を全学共通科目としているほか、学部共通科目にも「人間学関連科目」を配置し、建学の精神についての理解を深められるようにしている。これは、専門的な知識のベースには仏教的精神を背景とした「人間」理解が重要であるという本学の教育方針に基づいている。教職課程履修学生は、こうした科目や所属学科の専門科目を履修しつつ、教職課程の必修科目と選択科目をバランスよく履修していくことになる。本学では、各学期に履修登録できる単位数に上限を定めることで、授業時間外の学修時間を十分確保し、学生の主体的な学修を促す仕組みを設けている。人間学部コミュニケーション学科、人間生活学部健康栄養学科においては、各学期の上限を24単位、人間生活学部子ども教育学科においては26単位としている。なお、コミュニケーション学科、健康栄養学科においては、教職に関わる特設科目は、履修制限の対象とはしていない。特設科目の総単位数は、コミュニケーション学科においては37単位、健康栄養学科では26単位となっている。

履修できる単位数に上限を設ける一方で、教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数よりも多くの単位を修得できるカリキュラムとすることで、教職課程の充実も図っている。人間学部コミュニケーション学科においては、教職課程認定基準において28単位（高校は24単位）開設すべきとされる「教科及び教科の指導法に関する科目」を36単位開設し、学生がそれぞれの関心と必要に応じて教科に関する専門性を高められるようにしている。人間生活学部健康栄養学科においては、「教育の基礎的理解に関する科目」12単位、「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」10単位を必修としているが、これらの単位数は、施行規則で定める最低修得単位数を4単位ずつ上回っており、教職に関する高い専門性を身に付けられるようにしている。人間生活学部子ども教育学科においては、理科、音楽、体育、図画工作といった実技や実験を必要とする教科については、複数の科目を開設し、学びを深められるようにしている。また、「大学が独自に設定する科目」として「子どもの映像文化」「子どもと食育」「絵本・児童文学論」「子どもと英語教育」などの科目を開設し、ICTや食育、英語教育等について学びを深められるようにしている。さらに、同学科では、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許に加えて、保育士資格も取得できるカリキュラムを編成しており、乳幼児期から児童期までの子どもの成長発達過程を総合的に見通せる幼稚園・小学校教諭の養成を目指している。

本学では、すべての授業科目について毎年シラバスを作成しており、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。シラバスの内容に関しては、教育課程委員会主導のもと各学科において不備や欠落がないかを点検し、不備や欠落があった場合には各教員に記載内容の改善を求め、修正している。また、令和3（2021）年度には、教職課程委員会において教職課程科目のシラバスを点検し、ICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応ができているかどうか

かの確認作業を行ったところである。

〔長所・特色〕

本学で作成するシラバスには次のような記載項目が設けられており、教育課程全体の中での各科目の位置づけや、教育目標、授業内容、評価基準等が明確に示される様式になっている。①講義コード（ナンバリング）、②求める学習成果（教育目標）、③身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）、④授業の内容、⑤授業の到達目標、⑥アクティブ・ラーニング、⑦授業の計画及び授業外での学習方法、⑧成績評価方法、⑨成績評価基準。教職課程を実施するうえで重要になってくるのが⑥の項目と考えられる。今日の学校現場では、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）に向けた授業改善が求められているところだが、本学で用いるシラバスでは、授業時に行われるアクティブ・ラーニングの取り組みを6項目に分けて記載することになっている。これにより科目を履修する学生に授業方法が示されるとともに、担当教員の側でもアクティブ・ラーニングやグループワーク等の取り組みを意識した授業改善を行う契機になっていると考えられる。

〔取り組み上の課題〕

教職課程を実施するうえでの重要な素材として、履修カルテの存在が挙げられる。本学においても平成22（2010）年度入学生より履修カルテを活用しており、学生が教職課程の学びを定期的に振り返り、それを踏まえた教職指導を行うための素材としている。けれども、履修カルテの活用方法については各学科の取り組みに委ねられており、履修カルテの様式について大幅な変更はこれまで行ってこなかった。履修カルテ活用開始から10年以上が経過したことから、各学科における活用方法を改めて確認したうえで、様式に改善すべき点がないかを点検する機会が必要と考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-①：人間学部 学生便覧2022【P18、24、25、28～35】
- ・資料3-1-②：人間生活学部 学生便覧2022【P18、24～28、36～38、42～52】
- ・資料3-1-③：教職課程委員会規程
- ・資料3-1-④：教育課程委員会規程
- ・資料3-1-⑤：人間学部 シラバス2022
- ・資料3-1-⑥：人間生活学部 シラバス2022
- ・資料3-1-⑦：履修カルテ

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学は、地域からの強い要望をもとに設立された大学である。開学に当たっては、本学が立地する越前市と公私協力型（市による校地の提供及び施設整備の補助）で設置計画が進められ、福井県からも多大な支援を受けた。このことから本学では、地域貢献を重要な使命と受け止め、地域と連携しながら教育研究活動及び地域貢献活動を進めている。教職課程においても、地元の学校現場で実務経験のある教員が担当する科目を豊富に設け、実践的指導力を育成できるよう努めている。また、「教育実践に関する科目」を中心に、学校現場での経験が豊富な講師を招いての特別講義の機会を積極的に設けている。さらに、キャリア支援センターにおいても、教育委員会から講師を招聘して教員志望者向けガイダンスを開催しており、教育実践の最新の事情を学ぶ機会を教育課程の内外を通じて盛り込んでいる。

以上に加えて、人間学部コミュニケーション学科では、教育実習の事前指導において、近隣の中学校や仁愛女子高等学校での授業参観、学校見学、現職教員との懇談を行っている。人間生活学部健康栄養学科では、越前市内の小学校と連携し、家庭科の調理や栄養を取り上げる授業の補助を行う機会を設け、地域や学校の実態、ICTを活用した授業の実際を学べるようにしている。人間生活学部子ども教育学科においては、仁愛女子短期大学附属幼稚園と連携し、現場見学や学外実習が行える体制を設けている。また、越前市内の小学校と連携協力を行い、授業参観の機会を設けているほか、学生の卒業研究のフィールドとしてもご協力いただいている。

教育実習に際しては、実習協力校と密な連携ができるよう努めている。人間学部コミュニケーション学科では、実習協力校に関係教員が出向いて、実習についての事前打ち合わせを実施するようにしている。人間生活学部健康栄養学科では、実習協力校での訪問指導時に、学生の実習態度や準備状況等についての丁寧な聞き取りを行うよう努めている。人間生活学部子ども教育学科では、実習協力校の教職員を招いての事前の実習連絡会、事後の実習反省会を毎年開催し、学生の様子や実習指導のあり方について意見交換を行っている。

〔長所・特色〕

本学では、教育実習期間中にすべての実習協力校を訪問し、学生指導を行うとともに、協力校から学生の様子や本学への要望等を伺う機会を設けている。そこで得られた情報は、事後指導や次年度以降の実習指導に反映させている。また、学生に対しても実習後の振り返りの機会を設けている。人間学部コミュニケーション学科では、実習後に反省会を開催し、一人ひとりが実習で学んだことを振り返り、学生同士で共有し、教育実習後の学修における課題を明確にしている。また、反省会には下級生も出席し、実習を経験した学生からアドバイスを受けられる場ともなっている。人間生活学部健康栄養学科においても、学生一人ひとりが実習で行ってきた研究授業や実習を通して学んだことについて報告することで、学生同士で情報を共有し、学校教育や栄養教諭に求められる資質・能力に関する理解を深めている。また、下級生向けの報告会も実施しており、下級生が次年度の実習や履修中の授業に取り組む意欲を高められる機会としている。人間生活学部子ども教育学科でも、実習後に個別またはグループで振り返りを行い、下級生に報告を行う機会を設けている。また、振り返ったことをレポート集にまとめ、学生間で内容を共有するほ

か、レポート集は実習後の反省会等の機会に実習協力校にも配布している。

〔取り組み上の課題〕

上記のように、本学では、地元の教育委員会や教育実習協力校との連携に努めているが、連携の窓口が学科・部署ごとに別々になっているのが現状である。もとより、これは各学科・部署の規模や役割が異なるためであり、必ずしも一元化すべきものではないと考えられる。けれども、各学科・部署の取り組みを全学的に情報共有し、整理や改善を行える体制を設けていくことも必要である。教職課程委員会等において、各学科・部署の取り組みを共有する機会をより一層設ける必要があると言える。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-①：人間学部 シラバス 2022
- ・資料3-2-②：人間生活学部 シラバス 2022
- ・資料3-2-③：健康栄養学科 学外授業受入依頼
- ・資料3-2-④：越前市と仁愛大学との連携に関する協定書
- ・資料3-2-⑤：要望書(越前市と仁愛大学が連携した事業)
- ・資料3-2-⑥：コミュニケーション学科 教育実習等実施状況
- ・資料3-2-⑦：教育実習反省会開催案内

Ⅲ 総合評価

地方都市に立地する本学規模の大学においては、①学生と教職員との関係、②教職員相互の協働、③地域との連携を密にしやすい環境にあると言える。以下、これら三つの観点から教職課程に対する総合評価を行う。

まず①について。本学ではそれぞれの学科の教職課程に即した適切な規模の学生を受け入れることができていると言える。少人数教育の機会を最大限に活かしつつ、一人ひとりの学生の資質や適性に応じたきめ細かい教職指導やキャリア支援をより活発に行っているよう、今後も引き続き努める必要があると言える。②については、本学では教職課程の目的や実施状況は様々な形で可視化されており、教職員間で共有できる組織体制も整えられていると言える。一方で、共有した情報をもとに教職課程の質的向上を図る取り組みは、より意識的に取り入れられる必要があると考えられる。とりわけ、より教職課程に即したFD/SD活動の必要性の有無、履修カルテのより効果的な活用方法等について検討していく必要があると言える。③については、本学では地域の教育委員会や学校と関わる機会を豊富に盛り込みながら、教職課程を実施できていると言える。一方で、こうした取り組みの多くは、各学科・部署の創意工夫により行われているところが大きいと、学科や部署を超えた情報共有をより活発に行うことにより、全学的な取り組みに発展させられる余地がないかを検討していく必要があると言える。

小学校英語の教科化や高学年における教科担任制の導入、GIGA スクール構想の推進等、近年の学校現場は大きく変動している。それに伴い、本学においても今後の取り組みについて組織的に検討していく必要があると言える。地域の最新の動向を踏まえ、地域の要望に応えながら、引き続き教職課程の実施に努めていく必要がある。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

2021年11月2日	自己点検・評価についての情報共有（2021年度第3回教職課程委員会）
2022年4～10月	教職課程の内部質保証体制の検討と整備
2022年11月8日	自己点検・評価の実施の指示（2022年度第8回評議会）
2022年11月29日	評価項目・評価基準の決定、実施スケジュールの確認 (2022年度第2回教職課程委員会)
2022年12月	各学科における自己点検・評価実施
2023年1月13日	各学科の自己点検・評価を集約し、自己点検評価報告書案を作成
2023年2月3日	報告書案を検討し、一部修正のうえ承認（2022年度第3回教職課程委員会）
2023年2月28日	自己点検評価報告書の点検（2022年度第2回自己点検評価委員会）
2023年3月22日	自己点検評価報告書の点検と改善点の整理 (2022年度第2回教学マネジメント推進委員会)
2023年4月11日	自己点検評価報告書について報告（2023年度第1回評議会）

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名					
福井仁愛学園					
大学・学部名					
仁愛大学人間学部					
学科名					
コミュニケーション学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					73
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					68
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					2
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					1
⑤ のうち、正規採用数					0
④のうち、臨時的任用者数					1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6	6	3	0	0
相談員・支援員など専門職員数					
0					

令和4年5月1日現在

法人名					
福井仁愛学園					
大学・学部名					
仁愛大学人間生活学部					
学科名					
健康栄養学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					75
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					70
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 ※ (複数免許状取得者も1と数える)					10
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					1
⑤ のうち、正規採用数					1
④のうち、臨時的任用者数					0
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (助手)
教員数	8	2	3	0	5
相談員・支援員など専門職員数					
0					

※ 単位修得者数 (教員免許状の申請は個人で行う)

令和4年5月1日現在

法人名					
福井仁愛学園					
大学・学部名					
仁愛大学人間生活学部					
学科名					
子ども教育学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					76
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					75
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					69 (幼69、小37)
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					44
⑤ のうち、正規採用数					36
④のうち、臨時的任用者数					8
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	7	6	1	0	0
相談員・支援員など専門職員数					
0					